

## 別紙1 博物館と公文書館・図書館のレファレンス機能について

- 1 「レファレンス」を『広辞苑』で見ると、「参考・参照、(reference and information service から)図書館で資料・情報を求める利用者に対して提供される、文献の紹介・提供などの援助。参考調査業務」とある。今、必要なレファレンスは、この に当たる。すなわち、情報の提供であって、本や書籍の検索システムの紹介だけではない。
- 2 「資料・情報を求める利用者」は様々である。「三重県」「市」「町」という地域的な歴史や文化に関する型通りの情報だけでは事が済まず、極めて個人的な興味や関心で情報を求められることが多いと思う。

少し前になるが、千葉県のアさんから「戦後まもなく、半年ほど四日市付近の繊維工場で働いていたことがある。年金の関係でその工場名を社会保険事務所に報告しなければならぬが、自分自身に工場名の記憶がない。何か手掛かりはないか」という問い合わせがあった。特に資料の少ない時期の問い合わせで、困ったが、『伊勢年鑑』の「工場一覧」によれば「東洋紡績富田工場」か「鐘化紡績四日市工場」ではないかと回答した。「富田工場」という響きから、若干記憶がよみがえったのか、「富田工場かもしれない。更に詳しく調べるにはどうすればよいか」との質問を受けたので、東洋紡の社史編纂室の存在を教えた。

- 3 このように、個々に調査したい課題が異なるが、課題に対して面倒がらずに調査し、より詳しい情報の手掛かりを与えることが必要であり、そのレファレンス業務に意義を認めることが前提である。
- 4 博物館は、人文・自然系に関わらず、モノとしての資料を収集・調査する場所である。産業や社会構造の変化でかつては使用した器具や道具類なども、今は何なのか、分からなくなっている。また、普段口にしている農作物や魚介類も既に食材に加工してしまって、その原形などを知らない人が増えている。そういう意味では、博物館のレファレンスは実物確認への窓口である。
- 5 収蔵品の中に実物がなければ、どこに行けば実物が見られるのか、そのレファレンスも重要であり、県内外の状況を常に把握しておくことが大切である。
- 6 特に、今回の「博物館のあり方」検討の中では、他の博物館に類例の少ない「閲覧・レファレンス機能」を掲げており、図書や文献資料対象以外のレファレンス機能が注目される。

7 博物館が中心になって行うレファレンスを、千葉県のAさんの問い合わせを例として想定してみると以下のようになり、図書館・公文書館等の施設もその一端を担う。

**博物館**

- ・紡績機械や製品の実物
- ・当時の従業員作業着等
- ・工場の建築図面（模型含む）

**公文書館**

- ・戦後まもなくの四日市周辺地図

- ・四日市市役所の住民関係綴等

- ・東洋紡「家庭時報(富田工場版)」(県史資料)

- ・『伊勢年鑑(工場一覧)』

- ・『東洋紡社史』

- ・当時の地元新聞資料

**図書館**

8 それぞれの施設によって、対象とする資料が異なるが、博物館が四日市周辺地図～地元新聞資料を所蔵していても不都合はない。しかし、公文書館や図書館が当時の紡績機械や製品、従業員作業服などを収蔵するのは難しいし、機能上、不適切である。

9 こうしたことから、博物館が総合的に判断して収蔵対象資料を分担した上で、それぞれの施設でのレファレンス機能をも統括することが適切である。

10 しかし、博物館学芸員がすべての内容を把握することは困難であり、常に公文書館職員（アーキビスト）や図書館司書との連携が重要であることは言うまでもない。

（参考）公文書館の機能について

公文書館は、歴史資料として重要な公文書等を保存し、閲覧に供するとともに、これに関連する調査研究を行うことを目的とする施設とする。（法第4条）

「公文書等」には、古文書類も含まれる。